

蘇澳・南方澳

のんびり回ればなお楽しい
Relaxed Travelling in Su'ao and Nanfang'ao



アクセス情報

- **マイカー：**
(1)国道5号の蘇澳ICを下りて台9線で蘇澳市内方面へ向かう。または、南方澳方面へ約10分進んで南方澳へ。
(2)台9線を羅東経由で蘇澳へ進み、その後市内に入る。または、案内標識に従い南方澳へ進む。
(3)台2線を南へ進んで蘇澳に入り、蘇澳北路から蘇澳中路へ右折。白米橋を通過後、中山路一段へ進む。または、台2線を道なりに進んで江夏路へ向かえば、南方澳ビジターセンターへ到着。
- **公共交通機関：**
台鉄蘇澳駅を下車後、徒歩で市内へ。
南方澳へは、1766、1791、紅2、緑28のバス、または121宜蘭勁好行無料シャトルバスで向かう。
- **GPSナビ検索：**
(1)蘇澳駅：N24.595012・E121.851339
(2)南方澳ビジターセンター：N24.584456・E121.864367

南方澳ビジターセンター

Tel：03-995-3885 FAX：03-995-1260

住所：宜蘭県蘇澳鎮南正里2鄰江夏路85号

交通部観光署
東北角および宜蘭海岸国家風景区管理处
Tel：02-2499-1115 Fax：02-2499-1170
住所：228新北市貢寮区福隆里興隆街36号
WEBサイト：https://www.necoast-nsa.gov.tw

消費者ホットライン：1950

台湾観光バス：https://www.taiwantourbus.com.tw



白米木屨村及び碧涵軒ミカドギ生熊館

かつて「白米甕」と呼ばれていた白米木屨村では、伝統的な木製の下駄(木屨)を文化的かつ創意性を高めて商品化するように努めてきました。単なる履物としての下駄に留まらず、色彩豊かに装飾して見た目でも楽しめるような下駄を追求しています。「碧涵軒ミカドギ生熊館」は、白米村の奥深い山林に位置しており、鳳凰やミカドギ(帝雉)、ジューイ(角雉)など絶滅危惧種の鳥類の羽毛や卵の標本、羽飾りなどが展示されています。通がよければ、国主級の保護鳥である「台湾ミカドギ」の姿を目にすることができます。



武荖坑風景区

冬山郷と蘇澳鎮の境界に位置し、新成川の流域はここから平原へ流れています。山と川が織りなす美しい景色に清澄な泉水の流れは「武荖坑泉」と称され、景勝地「新蘭陽八景」の一つにもあげられています。この地域で生産されるお茶は、爽やかな香りとまろやかな甘みが特長でその名を馳せています。武荖坑は風景区として整備されてから、水遊び、ボート、キャンプ、アウトドアなど様々なレクリエーションが楽しめる理想的なスポットに生まれ変わりました。



蘇澳は三方を山に囲まれ、東側は太平洋に面し、

世界的でも珍しい冷泉資源を有しています。

毎年6～8月の冷泉シーズンには大勢の観光客で賑わいます。

また、貴重な深海珊瑚があることでも知られています。

南方澳漁港は「サバの故郷」とも称され、

毎年9～11月にかけて開催される「サバ祭り」は、

20年以上の歴史を誇ります。

周辺には、豆腐岬、

内埤海岸など素晴らしい景色が広がっています。

さらに「金身媽祖」や「珊瑚媽祖」は大変有名で、

訪れる価値のある観光スポットです。



蘇澳地区 Su'ao District

南方澳地区 Nanfang'ao District



無尾港水鳥保護区

蘭陽平原の東南部に位置する無尾港水鳥保護区は、北に龜山島、南に七星嶺が望めます。1993年に台湾初の水鳥保護区に指定され、その総面積は102haに及びます。生息エリア内には年間を通して留鳥が生息しており、毎年9～3月ごろになると数千羽もの渡り鳥が渡来し、ここで冬を越します。記録によると、これまで170種以上の鳥が観察されており、タカブシキ、カルガモ、オナガガモの群れが湖と海の間を行き来している様子も見られます。水面から鳥が飛び立つ姿は生命の美しさを感じずにはいられません。

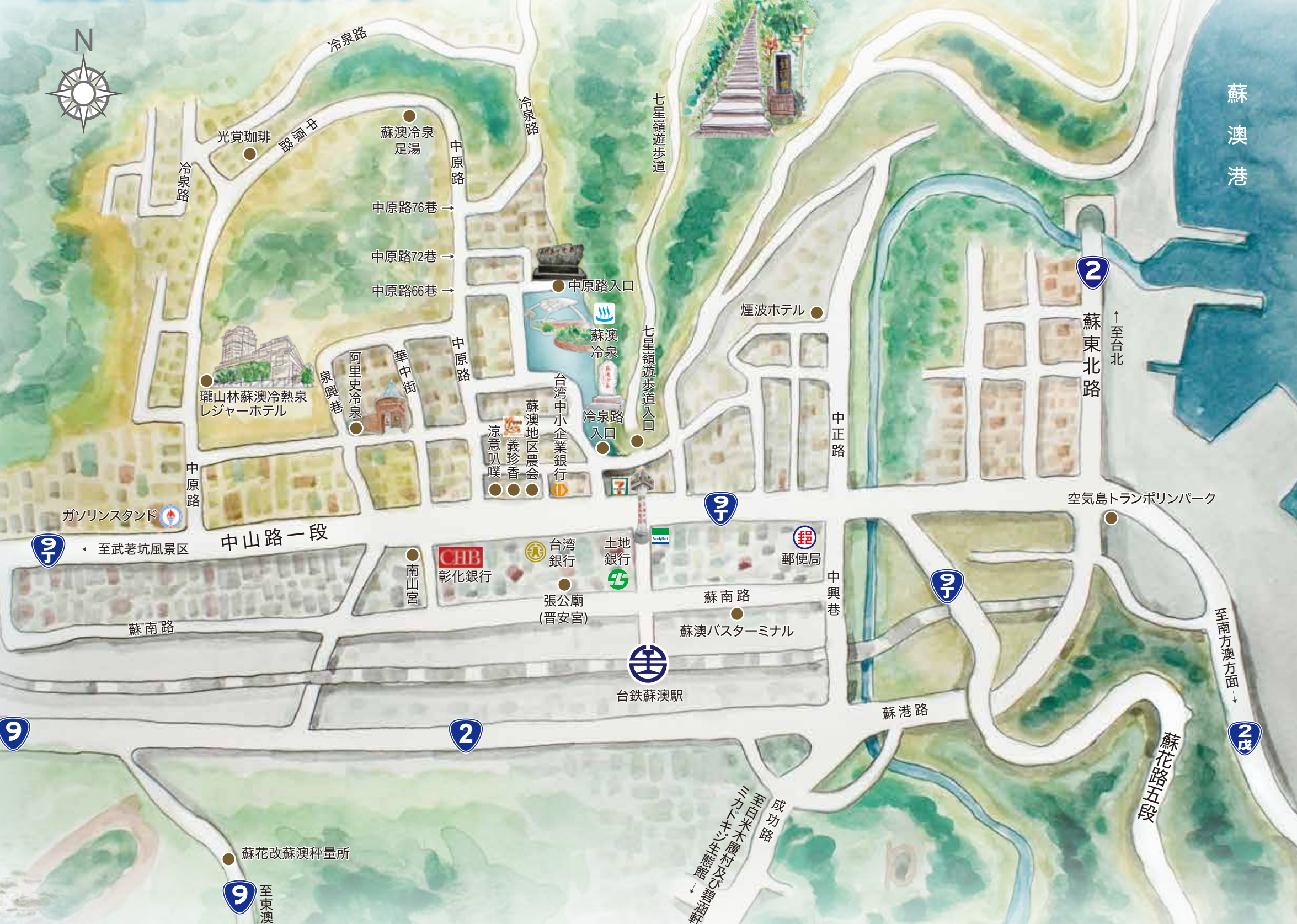


宜蘭伝芸園区

国立伝統芸術センターに属する園区の一つで、敷地面積は24ha。「伝芸333(三館、三街、三建築)」をコンセプトに作られ、親子連れでも元気に楽しむことができます。ここでは、伝統的な工芸体験や演劇鑑賞のほか、街なかを散策しながらグルメを味わうことができます。特産品のショッピングやDIY体験もお勧めです。特色ある伝統建築構造や美しい工芸技術などは見応えがあります。伝統工芸の職人展は常時開催され、街なかでは匠たちの伝統芸が見られます。園内からボートに乗れば冬山河親水公園へ遊びに行くこともできます。



蘇澳地区：冷泉の郷



阿里史冷泉

中原路にある阿里史冷泉は、蘇澳冷泉と同じ源泉から湧湯しており、泉質も同じ約21℃の純粋な炭酸泉です。世界にはイタリアと台湾の蘇澳にしか存在していないと言われています。裸で入れるタイプの裸湯エリアと水遊びエリアが完備されており、壁を挟んだ隣の洗濯エリアでは、住民たちが洗濯をしたり、足湯を楽しんだりしています。蘇澳地区の市民は無料で利用できます。



蘇澳冷泉公園及び七星嶺遊歩道

蘇澳地域は降水量が豊富で、地層にある石灰岩が大量の二酸化炭素を吸収し、約21℃の炭酸冷泉を発生させます。この冷泉は地元の重要な天然観光資源となっています。蘇澳冷泉の近くには七星嶺遊歩道の入口があります。全長約4,750mのハイキングコースで、最高点には標高230mの七星嶺公園があり、途中蘭陽平原や無尾港が見渡せます。また蘇澳港から南方澳村までの人文景観を一望できるのも魅力です。



蘇澳冷泉商圈

商圏内には多数の地元グルメやお土産さんが軒を連ね、宜蘭名産の牛舌餅や冷泉養生豆腐、魚料理などを買い求める人々で賑わいます。近年では、多くのアート職人がここへやってきて手工芸店を運営しています。また、地元へ帰ってきた若者たちが特色ある飲食店や古民家カフェ、文青雑貨店…などを開いていますので、ちょっと贅沢をしたり、地元ならではの土産を買ったりするには最適な場所です。



蘇澳港

蘇澳港湾の北側は七星嶺山が北方澳まで伸びており、南側は南方澳で陸繋島(陸続きと化した島)となっています。両側には長い岬が太平洋に向かって伸びており、まるでカニが両方の足でさきで広い水域を抱きかかえているように見えます。この地形は自然に形成されたもので、壮大な景色が広がっています。湾曲して陸に突き出ている地勢の北方澳は、一種の大きな天然堤防の役割を担い、強い東北季節風を避けて、天然の良港と言われる蘇澳を守っています。

■ 南方澳ビジターセンター

南方澳ビジターセンターは、グリーンビルディングという地球環境に配慮した設計を導入しています。雨水リサイクルシステムを設置し、自然光を大量に取り込み、風通しをよくするなど、自然資源を有効的に活用することで、省エネルギーによる二酸化炭素の削減に寄与しています。建物の内部は、多層構造を重視し、視覚的に開かれた設計で、室内空間と海岸風景を一体化させています。山と海がともに呼吸する空間に加え、充実したサービス機能も完備したモダンな建築物となっています。



■ 金媽祖と珊瑚媽祖

南方澳には、二つの有名な媽祖廟があります。その一つが第一漁港の向かいにある「南天宮」で、地元住民の心のよりどころとなっています。廟内に祀られている「金媽祖」は総重量200kgの純金で作られていて、その名は広く知られています。もう一つがビジターセンターに隣接する「進安宮」の「珊瑚媽祖」です。この神像の頭部と手は宝石珊瑚でできており、表面は粉末にした珊瑚に金粉を加えてコーティングしています。彫刻に二年の歳月を要したこの媽祖神像は、厳かな雰囲気を漂わせています。



■ 珊瑚法界博物館及び蜡藝蜡筆城堡

館内には、南方澳海域で収獲された多数の珍しい紅珊瑚と繊細で生き生きとした珊瑚アート作品が収蔵されています。南方澳地域の海の宝物が大切に保管されているので一見の価値があります。蜡藝蜡筆城堡(クレヨン観光工場)は、宜蘭で初めてQCサークル活動を取り入れた観光工場です。ここではお絵描きのほか、クレヨンや色鉛筆によるDIY体験、ボディペイントなどが楽しめます。親子で遊ぶには最適なスポットです。



■ 南方澳海産街

南方澳は海産物が大変豊富で、種類も多岐にわたり、一年を通して新鮮な海の幸を堪能することができます。漁港路には、各種の海鮮レストランや快炒店(台湾式の居酒屋)が林立し、観光海鮮通りとして賑わっています。新鮮さは言うまでもなく、値段もお手頃なので気楽に味わえます。それぞれのお店では独自にメニューを開発し腕を磨いていますので、満足できると間違いなしです。



■ 廟口小吃(庶民グルメ)

南天宮の隣にある廟口には地元でも人気のグルメが集結しています。米糕(おこわ)店は半世紀以上も営業を続けており、米糕に肉や魚のフレークとキュウリの漬物を載せればおいしさが倍増します。毎日手作りされる白皮丸(お肉の餡を包んだ料理)や肉羹(とろみスープ)、綿綿冰(かき氷)、三色花生捲冰淇淋(ピーナッツとアイスをクレープで包んだもの)など、どれもお勧めしたいグルメが目白押しです。このほか、飛虎魚(シイラ)団子は新鮮なシイラ(別名鬼頭刀)のすり身を団子状にしたもので、お刺身としても絶品です。また手作りの「黒糖糕(蒸しケーキ)」は低糖質の精進スイーツで、柔らかいのに歯ごたえがあります。黒糖糕は「南天宮」や「進安宮」を参拝する際にお供え物として利用されており、媽祖の神様に捧げて平穏無事を祈ります。またお土産としてもお勧めです。



南方澳地区：サバの故郷

台湾におけるサバの年間漁獲量は約4万トン。そのうちの90%は南方澳で水揚げされたもので、「サバの故郷」と称されています。

サバは一年を通して漁獲できますが、年末ごろは特に脂が乗っておいしいです。毎年冬には南方澳でサバ祭りが盛大に開催されます。



東北角および宜蘭海岸国家風景区 Northeast and Yilan Coast National Scenic Area

■ 豆腐岬遊憩区

南方澳漁港東側の陸繋島と呼ばれる地形の上に位置しています。海蝕によって形成された岬が特殊な豆腐の形に見えることからこの名前が付けました。現在は遊憩区として整備されており、水遊びやスノーケリング、SUPサーフィンなどが楽しめるほか、海岸沿いを散歩しながら、波の音を聞いたりすることもできます。日の出時になると朝日が反射して太平洋の海がキラキラと光り輝き、日没時には夕焼けの中漁船が帰港する様子が見られます。刻々と移り変わる景色はそれぞれに美しく、心を奪われてしまうことでしょう。

■ 南方澳第一競り魚市場

2023年に新しくオープンした競り魚市場で、その建物はまるで大型船が入港するような迫力があり、大漁祈願を象徴しています。中には競り販売エリアがあり、広々として明るく一階では水産物の販売もしています。また日本の魚市場を参考に実施している「魚の解体ショー」は血も生臭い匂いもないので、衛生かつ快適な環境で買い物楽しめます。地産地消ゆえに新鮮さと安心は保証します。



■ 南方澳漁港、跨港大橋

南方澳漁港は蘇澳港内にあります。沿岸漁業の漁獲量は豊富で、台湾三大漁港の一つです。珊瑚漁も盛んで、海鮮料理や地元民の情熱さは、南方澳ならではの特色となって漁村に魅力を添えています。2022年に完成した南方澳跨港大橋は、サバと海のデザインが取り入れられており、車道と歩道は分離されています。両側にはそれぞれに展望台が設けられているので、歩いても安全に橋を渡って漁港を俯瞰することができます。この橋が開通してからは新たなチェックインスポットとなりました。



■ 三剛鉄工場文物館

1962年の創立以来、漁船の修理・メンテナンスを専門に行っていた鉄工所でしたが、2004年に閉鎖しました。悠久な歴史を持つこの漁船修理工場を保存し、関連産業文化を伝承するため、鉄工所は文物展示館へと転身しました。文物館の一階は工作機械の母機が、二階は50年代に漁村で使用されていた部品や装置のアートが、三階は地元の文化芸術品がそれぞれ展示されており、四階からは南方澳漁港が一望できます。地元特有のノスタルジックな文化に触れられるスポットです。



■ 自然が作り上げた陸繋島一筆架山

南方澳南側の海岬とビーチは台湾最大の規模を誇り、陸繋島地形としてその名を轟かせています。山側から眺めると海上に横たわる小高い丘が見えます。標高は100m足らずですが、はっきりと数部(くぼみ)が確認できます。右側には三列に並んだ丘が筆架(筆掛け)のように見えることから、地元の人々は「筆架山」と呼んでいます。



■ 湾月形の内埤入り江

内埤路を道なり沿って漁港へ進んで、湾曲した上り坂を進むと、一面には太平洋が広がり、浸食と堆積の二種類の地形を見ることができます。このビーチは弓のようで、湾月を思わせるユニークな形となっています。後方には山、前方には海が臨めるので、日の出や打ち寄せる波を観賞するには最適なスポットです。恋人たちが手を繋ぎながらビーチをのんびり歩いていることから、「恋人湾」とも呼ばれています。



■ 南方澳展望台

蘇花公路108キロ地点に位置しており、花蓮から東北角及び宜蘭海岸国家風景区に入る際の最初の景観スポットです。駐車場だった場所が拡張整備されました。木製の展望デッキは広々とした断崖の上に取り、南方澳漁港や内埤ビーチ、筆架山、豆腐岬などの景色が一望できます。天気がよければ、遠くの蘇澳港や龜山島まで眺望できます。ここはまた撮影スポットとしても有名で多くの写真家が訪れています。



Nantang'ao